

学校コード F140310110650

注3

設置年度 令和 5年度

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

届出

注2

九州女子大学 人間科学部 心理・文化学科

【届出】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

学校法人福原学園
令和5年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 教務課

職名・氏名 教務課長 古賀 清美

電話番号 093-693-3301

(夜間) 093-693-3301

e-mail kwu-kyoumu@fains.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

人間科学部

＜心理・文化学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	14
4. 既設大学等の状況	15
5. 教員組織の状況	16
6. 附帯事項等に対する履行状況等	29
7. その他全般的事項	30

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人福原学園

(2) 大学名

九州女子大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒807-8586

福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(フクハラ キミコ) 福原 公子 (平成27年6月)		
学長	(オクダ トシヒロ) 奥田 俊博 (令和3年4月)		
学部長	(トモノウ エンカ) 友納 艶花 (令和3年4月)		
学科長等	(ナベタ トモヒロ) 鍋田 智広 (令和4年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)
令和5年度に報告する内容 → (5)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和5年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含まれていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
人間科学部 心理・文化学科 学士(文学)	文学関係	4年	90人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	360人	-	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。）

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A	入学定員	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	90人	—	—	—	—
	志願者数	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	150	(—)	(—)	(—)	(—)
	受験者数	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	150	(—)	(—)	(—)	(—)
	合格者数	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	129	(—)	(—)	(—)	(—)
B	入学者数	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	82	(—)	(—)	(—)	(—)
	入学定員超過率 B/A	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.91				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ () 内には、**編入学の状況について外数で記入**してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ **編入学生は記入しないでください。**
- ・ [] 内には、**留学生の状況について内数で記入**してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。**春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入**してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。**計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。**なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和6年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入**してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	82	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
2年次			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
3年次					-	-	-	-	-	-	-	-	
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
4年次							-	-	-	-	-	-	
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	82	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ **編入学生や転入学生も含めて**記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。**春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。**また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人	
令和元年度	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
令和2年度	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
令和3年度	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
			令和3年度	— 人	— 人	
令和4年度	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
			令和3年度	— 人	— 人	
			令和4年度	— 人	— 人	
令和5年度	82 人	0 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
			令和3年度	— 人	— 人	
			令和4年度	— 人	— 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
合計		0 人		0 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{—} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{—} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{—} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{—} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{—} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{82} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
書教諭課程科目 学校図書館司	学校経営と学校図書館	3前		2							兼1
	学校図書館メディアの構成	3後		2		1					
	情報メディアの活用	4前		2		1					
	学習指導と学校図書館	4後		2							兼1
	読書と豊かな人間性	4後		2							兼1
自由選択科目 K I C I P 科目	公務員試験概論	1前・後		1							兼1
	数的処理 I	1後		1							兼1
	社会科学 I	1後		1							兼1
	文章理解	2後		1				1			
	数的処理 II	2前		1							兼1
	数的処理 III	2後		1							兼1
	社会科学 II	2前		1							兼1
	人文科学	2後		1							兼1
	自然科学	2前		1							兼1
	憲法演習	2前		1							兼1
	行政法演習	2後		1							兼1
	民法（総則、物権）演習	2前		1							兼1
	民法（債権、親族・相続）演習	2後		1							兼1
	ミクロ経済学演習	2前		1							兼1
	マクロ経済学演習	2後		1							兼1
	法律科目演習 I	3前		1							兼1
	法律科目演習 II	3後		1							兼1
	経済科目演習 I	3前		1							兼1
	経済科目演習 II	3後		1							兼1
	行政科目演習 I	3前		1							兼1
	行政科目演習 II	3後		1							兼1
	会計学演習	3前		1							兼1
	専門科目記述式演習	3後		1							兼2
	公務員試験直前対策 I（教養）	3前		1							兼1
	文章理解演習	3前		1				1			
	人文科学演習	3前		1							兼1
	公務員試験直前対策 II（教養）	3後		1							兼1
	社会科学演習	3後		1							兼1
	自然科学演習	3後		1							兼1
	公務員試験直前対策 I（SPI）	3前		1							兼1
	公務員試験直前対策 II（SPI）	3後		1							兼1
公務員試験直前対策 III（教養）	4前		1							兼1	
公務員試験直前対策 III（SPI）	4前		1							兼1	
公務員人物試験対策	4前・後		1							兼1	
小計（54科目）		—	0	70	0	1	1	1	0	0	兼9

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
書教諭課程科目 学校図書館司	学校経営と学校図書館	3前		2							兼1
	学校図書館メディアの構成	3後		2		1					
	情報メディアの活用	4前		2		1					
	学習指導と学校図書館	4後		2							兼1
	読書と豊かな人間性	4後		2							兼1
自由選択科目 K I C I P 科目	公務員試験概論	1前・後		1							兼1
	数的処理 I	1後		1							兼1
	社会科学 I	1後		1							兼1
	文章理解	2後		1				1			
	数的処理 II	2前		1							兼1
	数的処理 III	2後		1							兼1
	社会科学 II	2前		1							兼1
	人文科学	2後		1							兼1
	自然科学	2前		1							兼1
	憲法演習	2前		1							兼1
	行政法演習	2後		1							兼1
	民法（総則、物権）演習	2前		1							兼1
	民法（債権、親族・相続）演習	2後		1							兼1
	ミクロ経済学演習	2前		1							兼1
	マクロ経済学演習	2後		1							兼1
	法律科目演習 I	3前		1							兼1
	法律科目演習 II	3後		1							兼1
	経済科目演習 I	3前		1							兼1
	経済科目演習 II	3後		1							兼1
	行政科目演習 I	3前		1							兼1
	行政科目演習 II	3後		1							兼1
	会計学演習	3前		1							兼1
	専門科目記述式演習	3後		1							兼2
	公務員試験直前対策 I（教養）	3前		1							兼1
	文章理解演習	3前		1				1			
	人文科学演習	3前		1							兼1
	公務員試験直前対策 II（教養）	3後		1							兼1
	社会科学演習	3後		1							兼1
	自然科学演習	3後		1							兼1
	公務員試験直前対策 I（SPI）	3前		1							兼1
	公務員試験直前対策 II（SPI）	3後		1							兼1
公務員試験直前対策 III（教養）	4前		1							兼1	
公務員試験直前対策 III（SPI）	4前		1							兼1	
公務員人物試験対策	4前・後		1							兼1	
小計（54科目）		—	0	70	0	1	1	1	0	0	兼10

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
留学生特別科目	初級日本語ⅠA	1前・後	2								兼2
	初級日本語ⅡA	1前・後	2								兼1
	初級日本語ⅠB	1前・後	2								兼1
	初級日本語ⅡB	1前・後	2								兼1
	初級日本語ⅠC	1前・後	2								兼1
	初級日本語ⅡC	1前・後	2								兼1
	初級日本語ⅠD	1前・後	2								兼1
	初級日本語ⅡD	1前・後	2								兼1
	初級日本語ⅠE	1前・後	2								兼1
	初級日本語ⅡE	1前・後	2								兼1
	日本語講座Ⅰ	1前	2								兼1
	日本語講座Ⅱ	1後	2								兼1
	日本事情Ⅰ	1前	2								兼1
	日本事情Ⅱ	1後	2								兼1
	比較文化Ⅰ	2前	2								兼1
	比較文化Ⅱ	2後	2								兼1
小計(16科目)	—	0	32	0	0	0	0	0	0	0	兼8
合計(227科目)	—	20	312	33	6	3	2	0	0	0	兼69
卒業要件及び履修方法											
総合共通科目30単位以上、専門教育科目76単位以上、自由選択科目18単位以上の合計124単位以上を修得すること。なお、自由選択科目には、自学科で単位修得した科目のうち卒業に要する単位数を超える科目、及び、自学部他学科もしくは他学部で単位修得した科目を含む。											

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
留学生特別科目	初級日本語ⅠA	1前・後	2								兼1
	初級日本語ⅡA	1前・後	2								兼1
	初級日本語ⅠB	1前・後	2								兼1
	初級日本語ⅡB	1前・後	2								兼1
	初級日本語ⅠC	1前・後	2								兼1
	初級日本語ⅡC	1前・後	2								兼1
	初級日本語ⅠD	1前・後	2								兼1
	初級日本語ⅡD	1前・後	2								兼1
	初級日本語ⅠE	1前・後	2								兼1
	初級日本語ⅡE	1前・後	2								兼1
	日本語講座Ⅰ(未開講)	1前	2								兼1
	日本語講座Ⅱ(未開講)	1後	2								兼1
	日本事情Ⅰ(未開講)	1前	2								兼1
	日本事情Ⅱ(未開講)	1後	2								兼1
	比較文化Ⅰ	2前	2								兼1
	比較文化Ⅱ	2後	2								兼1
小計(16科目)	—	0	32	0	0	0	0	0	0	0	兼10
合計(229科目)	—	20	316	33	8	5	4	0	0	0	兼73
卒業要件及び履修方法											
総合共通科目30単位以上、専門教育科目76単位以上、自由選択科目18単位以上の合計124単位以上を修得すること。なお、自由選択科目には、自学科で単位修得した科目のうち卒業に要する単位数を超える科目、及び、自学部他学科もしくは他学部で単位修得した科目を含む。											

- (注)
- ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和5年度】

- ・教育効果を向上させることを目的として、「ことばと日本文化」をオムニバスにすることとし、担当者を兼任2名から兼任3名に変更。□
- ・教育課程編成上の都合により、「日本語表現法Ⅰ」の担当者を兼任2名から教授1名、講師1名、兼任1名に変更。
- ・教育課程編成上の都合により、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」の担当者を兼任1名から兼任3名に変更
- ・教育課程編成上の都合により、「情報処理演習Ⅰ」の担当者を教授1名、兼任2名から准教授1名、兼任2名に変更。
- ・教育課程編成上の都合により、「情報処理演習Ⅱ」の担当者を教授1名、兼任2名から兼任3名に変更。
- ・教育課程編成上の都合により、「情報科学概論」の担当者を教授1名から准教授1名に変更。□
- ・就任辞退および教育課程編成上の都合により、「スポーツ」の担当者を兼任1名、兼任2名から兼任1名、兼任3名に変更。
- ・教育課程編成上の都合により、「キャリア基礎演習Ⅰ」の担当者を教授1名、准教授2名から教授1名、准教授1名、講師2名に変更。
- ・関洋輔兼任教員が専任教員となったため、「キャリアデザインⅠ」の担当者を准教授1名、兼任1名、兼任1名から准教授2名、兼任1名に変更。
- ・教育効果を向上させることを目的として、「人間科学概論」をオムニバスにすることとし、担当者を教授5名から教授5名、准教授1名、兼任1名に変更。
- ・教育課程編成上の都合により、「健康・医療心理学」の担当者を講師1名から教授1名に変更。
- ・教職課程認定申請における指摘対応のため、「日本古典文学演習」を「日本古典文学演習Ⅰ」に科目名称を変更し、「日本古典文学演習Ⅱ」を追加。
- ・教職課程認定申請における指摘対応のため、「鑑賞」の配当年次を3年後期から3年前期に変更。
- ・教職課程認定申請における指摘対応のため、「日本近現代文学演習」を「日本近現代文学演習Ⅰ」に科目名称を変更し、「日本近現代文学演習Ⅱ」を追加。
- ・教育課程編成上の都合により、「文化芸概論」の担当者を教授1名、准教授2名から教授1名、准教授3名、講師1名、兼任1名に変更。
- ・教職課程認定申請における指摘対応のため、「教育方法学（情報通信技術の活用を含む。）」「生徒・進路指導（中等）」の配当年次を3年後期から2年後期に変更。
- ・教職課程認定申請における指摘対応のため、「中等教育実習Ⅰ」「中等教育実習Ⅱ」の配当年次を3年通年から3年後期に変更。
- ・就任辞退に伴い、「初級日本語ⅠA」の担当者を兼任2名から兼任1名に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
18 科目	192 科目	17 科目	227 科目	18 科目 [0]	194 科目 [2]	17 科目 [0]	229 科目 []	教職課程認定申請における指摘対応のため、科目追加

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{227} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	九州女子短期大学と共 用			
	校舎敷地	— m ²	35,938.40 m ²	— m ²	35,938.40 m ²				
	運動場用地	— m ²	13,551.27 m ²	— m ²	13,551.27 m ²				
	小 計	— m ²	49,489.67 m ²	— m ²	49,489.67 m ²				
	そ の 他	— m ²	62,035.77 m ²	— m ²	62,035.77 m ²				
	合 計	— m ²	111,525.44 m ²	— m ²	111,525.44 m ²				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	九州女子短期大学と共 用			
		— m ²	34,308.93 m ²	— m ²	34,308.93 m ²				
		(— m ²)	(34,308.93 m ²)	(— m ²)	(34,308.93 m ²)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 用途変更のため(5)			
	42 44 室	44 46 室	18 室	5 室 (補助職員 1 人)	— 室 (補助職員 — 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		専任教員5名就任のため (5)			
	人間科学部 心理・文化学科			16 44 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体 学部学科単位での特定 不能なため、大学全体 の数。 開設準備に伴う増冊に よる変更。(5)	
	人間科学部 心理・文化学科	216,560 [28,746] (213,011 [28,757]) (200,328 [28,706])	154 [—] (154 [—])	4 [4] (4 [4])	4,596 (4,566) (-4,556)	— (—)	— (—)		
	計	216,560 [28,746] (213,011 [28,757]) (200,328 [28,706])	154 [—] (154 [—])	4 [4] (4 [4])	4,596 (4,566) (-4,556)	— (—)	— (—)		
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
	2,893.77 m ²	380		205,000					
(7) 体 育 館	面 積	体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要					大学全体		
	4,435.02 m ²	テ ニ ス コ ー ト 5 面 ソ フ ト ボ ー ル 場							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書費には電子ジャーナル、データベース、その他の経費(運用コストを含む。)を含む。
		教員 1 人 当り 研究 費 等	300 千円	300 千円	図書購入費	0 千円	50 千円	0 千円	
	共 同 研 究 費 等	— 千円	— 千円	設備購入費	0 千円	0 千円	0 千円		
	学 生 1 人 当り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
	1,200 千円	940 千円	940 千円	940 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	九州女子大学										1	1	1	1	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考		
	年	人	年次人	人		倍	倍	倍	倍	年度	年度				
家政学部															
生活デザイン学科	4	60	-	240	学士(家政学)	0.60	-	0.60	-	-	令和5	福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1	令和5年度入学生より学生募集停止		
人間生活学科	4	40	-	160	学士(家政学)	1.10	-	1.07	-	-	平成13	同上			
栄養学科	4	90	-	360	学士(家政学)	0.96	-	0.95	-	-	平成13	同上			
人間科学部															
児童・幼児教育学科	4	100	-	400	学士(教育学)	0.85	-	0.85	-	-	令和5	福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1	令和5年度入学生より学生募集停止		
心理・文化学科	4	90	-	360	学士(文学)	0.91	-	0.91	-	-	令和5	同上			
人間発達学科	4	250	3年次40	1080	学士(文学)	1.05	-	0.90	-	-	平成22	同上			
人間発達学専攻	4	190	-	-	学士(文学)	0.85	-	0.84	-	-	平成22	同上			
人間基礎学専攻	4	60	3年次40	-	学士(文学)	1.48	-	0.98	-	-	平成22	同上			
大学全体	4	340	-	1360	-	-	-	-	-	-	-	-			

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 (様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。)
- ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合は、「-」としてください。
 - ・「平均入学定員超過率(控除後含む)」及び「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず赤字にしてください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<人間科学部 心理・文化学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	友納 艶花 (49) <令和5年4月> 博士(心理学)	キャリア基礎演習Ⅰ 人間科学概論 心理学的支援法 心理的アセスメント 社会・集団・家族心理学Ⅱ(家族心理学) 心理演習 産業・組織心理学 公認心理師の職責 関係行政論 心理実習 生徒・教育相談論(中等) ゼミナールⅣ キャリア発展ゼミナール 生徒・進路指導(中等)
専	教授	鄭 俊如 (58) <令和5年4月> 博士(情報工学)	情報文化論 情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 情報科学概論 データサイエンス アルゴリズムとプログラミング ICT活用法 情報処理技術 キャリア基礎演習Ⅱ 人間科学概論 デジタル書道 ゼミナールⅡ キャリア発展ゼミナール 図書館情報技術論 学校図書館メディアの構成 情報メディアの活用
専	教授	江口 恵子 (65) <令和5年4月> 修士(教育学)	キャリア基礎演習Ⅲ スキルアップ講座D スキルアップ講座E 人間科学概論 国語科教材分析 コース実践演習Ⅰ コース実践演習Ⅱ コース実践演習Ⅲ ゼミナールⅢ キャリア発展ゼミナール 国語科教育法Ⅰ 国語科教育法Ⅱ 国語科教育法Ⅲ 国語科教育法Ⅳ 中等教育実習事前事後指導 中等教育実習Ⅰ 中等教育実習Ⅱ 教職実践演習(中等)
専	教授	奥田 俊博 (52) <令和8年4月> 博士(文学)	キャリア発展ゼミナール
専	教授	鍋田 智広 (43) <令和5年4月> 博士(心理学)	キャリア基礎演習Ⅱ 人間科学概論 学習・言語心理学 コミュニケーション概論 教育・学校心理学 知覚・認知心理学Ⅱ(認知心理学) 心理学統計法Ⅰ 心理学実験Ⅰ 感情・人格心理学 心理実習 教育心理学 ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ キャリア発展ゼミナール

【令和5年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	友納 艶花 (50) <令和5年4月> 博士(心理学)	キャリア基礎演習Ⅰ 人間科学概論※ 心理学的支援法 心理的アセスメント 社会・集団・家族心理学Ⅱ(家族心理学) 心理演習 産業・組織心理学 公認心理師の職責 関係行政論 心理実習 生徒・教育相談論(中等) ゼミナールⅣ キャリア発展ゼミナール 生徒・進路指導(中等)
専	教授	鄭 俊如 (59) <令和5年4月> 博士(情報工学)	情報文化論 データサイエンス アルゴリズムとプログラミング ICT活用法 情報処理技術 キャリア基礎演習Ⅱ 人間科学概論※ デジタル書道 ゼミナールⅡ キャリア発展ゼミナール 図書館情報技術論 学校図書館メディアの構成 情報メディアの活用
専	教授	江口 恵子 (66) <令和5年4月> 修士(教育学)	日本語表現法Ⅰ キャリア基礎演習Ⅲ スキルアップ講座D スキルアップ講座E 人間科学概論※ 国語科教材分析 コース実践演習Ⅰ コース実践演習Ⅱ コース実践演習Ⅲ ゼミナールⅢ キャリア発展ゼミナール 国語科教育法Ⅱ 国語科教育法Ⅲ 国語科教育法Ⅳ 中等教育実習事前事後指導 中等教育実習Ⅰ 中等教育実習Ⅱ 教職実践演習(中等)
専	教授	内村 尚俊 (80) <令和5年4月> 学士(文学)	国語科教育法Ⅰ
専	教授	奥田 俊博 (53) <令和8年4月> 博士(文学)	キャリア発展ゼミナール
専	教授	鍋田 智広 (44) <令和5年4月> 博士(心理学)	キャリア基礎演習Ⅱ 人間科学概論※ 学習・言語心理学 コミュニケーション概論 教育・学校心理学 知覚・認知心理学Ⅱ(認知心理学) 心理学統計法Ⅰ 心理学実験Ⅰ 感情・人格心理学 心理実習 教育心理学 ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ キャリア発展ゼミナール

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	古浦 修子 (40) <令和5年4月> 博士(文学)	専	教授	古浦 修子 (41) <令和5年4月> 博士(文学)
		日本語表現法Ⅱ キャリア基礎演習Ⅱ 人間科学概論 日本近現代文学史 日本近現代文学演習 文化文芸概論 日本文学概論 文章表現 文化文芸インターンシップ ゼミナールⅡ キャリア発展ゼミナール			日本語表現法Ⅱ キャリア基礎演習Ⅱ 人間科学概論※ 日本近現代文学史 日本近現代文学演習Ⅰ 日本近現代文学演習Ⅱ 文化文芸概論 日本文学概論 文章表現 文化文芸インターンシップ ゼミナールⅡ キャリア発展ゼミナール
			専	教授	押岡 大覚 (46) <令和5年4月> 博士(心理学)
					健康・医療心理学
専	准教授	古木 誠彦 (55) <令和5年4月> 修士(芸術学)	専	准教授	古木 誠彦 (56) <令和5年4月> 修士(芸術学)
		キャリア基礎演習Ⅰ スキルアップ講座D スキルアップ講座E 楷書法Ⅱ 行草書法Ⅰ 行草書法Ⅱ 書写書道Ⅱ 中国書道史 日本書道史 書論 篆隸書法Ⅰ 篆隸書法Ⅱ 仮名書法Ⅰ コース実践演習Ⅰ コース実践演習Ⅱ 文化文芸概論 デジタル書道 文化文芸インターンシップ ゼミナールⅣ キャリア発展ゼミナール 書道科教育法Ⅰ 書道科教育法Ⅱ 中等教育実習事前事後指導 教職実践演習(中等)			キャリア基礎演習Ⅰ スキルアップ講座D スキルアップ講座E 人間科学概論※ 楷書法Ⅱ 行草書法Ⅰ 行草書法Ⅱ 書写書道Ⅱ 中国書道史 日本書道史 書論 篆隸書法Ⅰ 篆隸書法Ⅱ 仮名書法Ⅰ コース実践演習Ⅰ コース実践演習Ⅱ 文化文芸概論 デジタル書道 文化文芸インターンシップ ゼミナールⅣ キャリア発展ゼミナール 書道科教育法Ⅰ 書道科教育法Ⅱ 中等教育実習事前事後指導 教職実践演習(中等)
専	准教授	矢崎 美香 (57) <令和5年4月> 学士(国文学)	専	准教授	矢崎 美香 (58) <令和5年4月> 学士(国文学)
		キャリア基礎演習Ⅲ ゼミナールⅢ キャリア発展ゼミナール 図書館概論 情報資源組織論 情報資源組織演習Ⅰ 情報資源組織演習Ⅱ 情報サービス論 情報サービス演習Ⅰ 情報サービス演習Ⅱ 図書館情報資源概論 図書館サービス概論 図書館制度・経営論 図書館サービス特論・図書館情報資源特論			キャリア基礎演習Ⅲ ゼミナールⅢ キャリア発展ゼミナール 図書館概論 情報資源組織論 情報資源組織演習Ⅰ 情報資源組織演習Ⅱ 情報サービス論 情報サービス演習Ⅰ 情報サービス演習Ⅱ 図書館情報資源概論 図書館サービス概論 図書館制度・経営論 図書館サービス特論・図書館情報資源特論
専	准教授	吉岡(平沢) 真由美 (32) <令和5年4月> 博士(国文学)	専	准教授	吉岡(平沢) 真由美 (33) <令和5年4月> 博士(国文学)
		伝わる文章力 キャリア基礎演習Ⅰ キャリアデザインⅠ 日本語学概論(音声言語を含む。) 日本語文法 日本語史概論 日本古典文学演習 日本語学演習Ⅰ 日本語学演習Ⅱ 文化文芸概論 日本語の歴史 文化文芸インターンシップ ゼミナールⅠ ゼミナールⅣ キャリア発展ゼミナール 中等教育実習事前事後指導			伝わる文章力 キャリアデザインⅠ 日本語学概論(音声言語を含む。) 日本語文法 日本語史概論 日本古典文学演習Ⅰ 日本古典文学演習Ⅱ 日本語学演習Ⅰ 日本語学演習Ⅱ 文化文芸概論 日本語の歴史 文化文芸インターンシップ ゼミナールⅠ ゼミナールⅣ キャリア発展ゼミナール 中等教育実習事前事後指導
			専	准教授	柏原 廉人 (37) <令和5年4月> 修士(学術)※
					文化文芸概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	山口 勇弥 (36) <令和5年4月> 臨床心理修士(専門職)
		キャリア基礎演習Ⅲ 心理学概論 発達心理学 健康・医療心理学 臨床心理学概論 心理学研究法 心理学実験Ⅱ 障害者・障害児心理学 司法・犯罪心理学 公認心理師の職責 関係行政論 心理実習 ゼミナールⅢ キャリア発展ゼミナール
専	講師	大場 健司 (33) <令和6年4月> 博士(学術)
		キャリア基礎演習Ⅲ 日本近現代文学 ビジュアル文化論 メディアと現代文化 文化文芸インターンシップ ゼミナールⅠ ゼミナールⅢ キャリア発展ゼミナール 文章理解 文章理解演習
兼任	教授	中島 久代 (61) <令和5年4月> 博士(文学)
		ことばと異文化 TOEIC入門 イングリッシュワークショップ 海外研修 インターンシップⅠ インターンシップⅡ スキルアップ講座B スキルアップ講座C
兼任	教授	高良 秀昭 (64) <令和7年4月> 学校教育学修士
		特別支援教育論
兼任	教授	堺 正之 (65) <令和5年4月> 教育学修士
		教職概論 教育原論 教職実践演習(中等)
兼任	准教授	吉村 圭 (40) <令和5年4月> 比較文化学修士
		TOEIC入門 イングリッシュワークショップ スキルアップ講座R スキルアップ講座S
兼任	准教授	松原 留美 (56) <令和5年4月> 博士(比較社会文化)
		英語Ⅰ 英語Ⅱ TOEIC入門 イングリッシュワークショップ スキルアップ講座R スキルアップ講座S
兼任	准教授	本多 辰之 (67) <令和5年4月> 芸術学士
		スポーツ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	山口 勇弥 (37) <令和5年4月> 臨床心理修士(専門職)
		キャリア基礎演習Ⅲ 心理学概論 臨床心理学概論 心理学研究法 心理学実験Ⅱ 障害者・障害児心理学 司法・犯罪心理学 公認心理師の職責 関係行政論 心理実習 ゼミナールⅢ キャリア発展ゼミナール
専	講師	大場 健司 (34) <令和6年4月> 博士(学術)
		キャリア基礎演習Ⅲ 日本近現代文学 ビジュアル文化論 メディアと現代文化 文化文芸インターンシップ ゼミナールⅠ ゼミナールⅢ キャリア発展ゼミナール 文章理解 文章理解演習
専	講師	安井 絢子 (36) <令和5年4月> 博士(文学)
		日本語表現法Ⅰ キャリア基礎演習Ⅰ 文化文芸概論
専	講師	園田 文香 (51) <令和5年4月> 博士(心理学)
		キャリア基礎演習Ⅰ 発達心理学
兼任	教授	中島 久代 (62) <令和5年4月> 博士(文学)
		ことばと異文化※ TOEIC入門 イングリッシュワークショップ 海外研修 インターンシップⅠ インターンシップⅡ スキルアップ講座B スキルアップ講座C
兼任	教授	高良 秀昭 (65) <令和7年4月> 学校教育学修士
		特別支援教育論
兼任	教授	堺 正之 (66) <令和5年4月> 教育学修士
		教職概論 教育原論 教職実践演習(中等)
兼任	准教授	松原 留美 (56) <令和5年4月> 博士(比較社会文化)
		英語Ⅰ 英語Ⅱ TOEIC入門 イングリッシュワークショップ スキルアップ講座R スキルアップ講座S
兼任	准教授	本多 辰之 (68) <令和5年4月> 芸術学士
		スポーツ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	関 洋輔 (43) <令和5年4月> 修士(人間科学)
		キャリアデザイン I
兼任	准教授	作田 澄泰 (49) <令和6年9月> 修士(教育学)
		道徳教育指導法(中等) 特別活動・総合的な学習の時間 指導法
兼任	講師	細井 陽子 (55) <令和5年4月> 教育学修士
		健康の科学 インターンシップ I
兼任	講師	松本 真理子 (51) <令和6年9月> 応用社会学修士※
		心理演習 福祉心理学 公認心理師の職責 関係行政論
兼任	講師	櫻澤 葉子 (61) <令和5年4月> 文学修士
		ことばと日本文化 日本語表現法 I
兼任	講師	大川内 夏樹 (38) <令和5年4月> 博士(文学)
		ことばと日本文化
兼任	講師	山下 高之 (70) <令和5年4月> 文学修士
		ことばと異文化 フランス語 I フランス語 II キャリアデザイン I
兼任	講師	前原 志保 (47) <令和5年4月> 博士(法学博士)(台湾)
		ことばと異文化 共生社会を生きる
兼任	講師	内田 満 (51) <令和5年4月> 学士(体育学)
		スポーツの文化
兼任	講師	鎌田 厚志 (44) <令和5年4月> 修士(法学)
		歴史と国際情勢
兼任	講師	古澤 勝人 (50) <令和5年4月> Ph. D. in Politics (英国)
		現代国家と法(日本国憲法)
兼任	講師	渡部 忠信 (55) <令和5年4月> 修士(法学)
		暮らしと経済
兼任	講師	井手 靖子 (52) <令和5年4月> 修士(比較社会文化)
		人権・同和教育

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	准教授	関 洋輔 (44) <令和5年4月> 修士(人間科学)
		情報処理演習 I 情報科学概論 キャリアデザイン I
兼任	准教授	作田 澄泰 (50) <令和6年9月> 修士(教育学)
		道徳教育指導法(中等) 特別活動・総合的な学習の時間 指導法
兼任	講師	細井 陽子 (56) <令和5年4月> 教育学修士
		健康の科学 インターンシップ I
兼任	講師	松本 真理子 (52) <令和6年9月> 応用社会学修士※
		心理演習 福祉心理学 公認心理師の職責 関係行政論
兼任	講師	櫻澤 葉子 (62) <令和5年4月> 文学修士
		ことばと日本文化※
兼任	講師	大川内 夏樹 (39) <令和5年4月> 博士(文学)
		ことばと日本文化※
兼任	講師	山下 高之 (71) <令和5年4月> 文学修士
		ことばと異文化※ フランス語 I フランス語 II キャリアデザイン I
兼任	講師	前原 志保 (48) <令和5年4月> 博士(法学博士)(台湾)
		ことばと異文化※ 共生社会を生きる
兼任	講師	内田 満 (52) <令和5年4月> 学士(体育学)
		スポーツの文化
兼任	講師	鎌田 厚志 (46) <令和5年4月> 修士(法学)
		歴史と国際情勢
兼任	講師	古澤 勝人 (51) <令和5年4月> Ph. D. in Politics (英国)
		現代国家と法(日本国憲法)
兼任	講師	渡部 忠信 (56) <令和5年4月> 修士(法学)
		暮らしと経済
兼任	講師	井手 靖子 (53) <令和5年4月> 修士(比較社会文化)
		人権・同和教育

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	野見山 待子 (53) <令和5年4月> 博士(文学)
		人間と哲学
兼任	講師	中山 伸介 (53) <令和5年4月> 博士(工学)
		生命と地球
兼任	講師	釘原 直樹 (69) <令和5年4月> 博士(教育心理学)
		心の科学
兼任	講師	幣 亜由美 (51) <令和5年4月> 学士(教育学)
		日本語表現法 I
兼任	講師	井料 佐紀子 (46) <令和5年4月> 修士(文学)
		日本語表現法 II 初級日本語 I C 初級日本語 II C
兼任	講師	永松 美保 (61) <令和5年4月> 博士(学術)
		英語 I 英語 II
兼任	講師	伊藤 真紀 (46) <令和5年4月> 修士(文学)
		英語 I 英語 II
兼任	講師	山口 晋平 (28) <令和5年4月> 修士(言語学)
		英語 I 英語 II
兼任	講師	バーカー・A・ジョン (51) <令和5年4月> Bachelor of Science(豪州)
		英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II イングリッシュワークショップ
兼任	講師	フェラマルズ・サミファンニイ (56) <令和6年4月> 教育学博士(フィリピン共和国)
		英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II
兼任	講師	方 如偉 (67) <令和5年4月> 教育学修士
		中国語 I 中国語 II 比較文化 I 比較文化 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	野見山 待子 (54) <令和5年4月> 博士(文学)
		人間と哲学
兼任	講師	中山 伸介 (54) <令和5年4月> 博士(工学)
		生命と地球
兼任	講師	釘原 直樹 (70) <令和5年4月> 博士(教育心理学)
		心の科学
兼任	講師	幣 亜由美 (52) <令和5年4月> 学士(教育学)
		日本語表現法 I
兼任	講師	井料 佐紀子 (47) <令和5年4月> 修士(文学)
		日本語表現法 II 初級日本語 I C
兼任	講師	永松 美保 (62) <令和5年4月> 博士(学術)
		英語 I 英語 II
兼任	講師	伊藤 真紀 (47) <令和5年4月> 修士(文学)
		英語 I 英語 II
兼任	講師	バーカー・A・ジョン (52) <令和5年4月> Bachelor of Science(豪州)
		英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II イングリッシュワークショップ
兼任	講師	フェラマルズ・サミファンニイ (57) <令和6年4月> 教育学博士(フィリピン共和国)
		英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II
兼任	講師	方 如偉 (68) <令和5年4月> 教育学修士
		中国語 I 中国語 II 比較文化 I 比較文化 II
兼任	講師	陳 振華 (65) <令和5年4月> 法学修士
		中国語 I 中国語 II
兼任	講師	鳥丸 知子 (53) <令和5年4月> 工学博士
		中国語 I 中国語 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	李 大年 (平山 彩音) (45) <令和5年4月> 博士(日本社会文化)
		韓国語 I 韓国語 II
兼任	講師	中村 友一 (54) <令和5年4月> 情報工学修士
		情報処理演習 I 情報処理演習 II 情報処理演習 III
兼任	講師	黒坂 知絵 (43) <令和5年4月> 博士(工学)
		情報処理演習 I 情報処理演習 IV
兼任	講師	堀尾 依莉 (42) <令和5年9月> 修士(工学)
		情報処理演習 II
兼任	講師	高西 敏正 (55) <令和5年4月> 博士(医学)
		スポーツ
兼任	講師	徳永 政夫 (65) <令和5年4月> 体育学士
		スポーツ
兼任	講師	尾上 百合加 (47) <令和7年4月> 修士(経営学)
		キャリアデザイン II キャリアデザイン III
兼任	講師	願 佩霊 (43) <令和6年4月> 心理学修士
		社会調査法 心理学統計法 II
兼任	講師	植村 善太郎 (50) <令和5年9月> 博士(教育心理学)
		社会・集団・家族心理学 I (社会・集団心理学)
兼任	講師	銭 琨 (38) <令和5年4月> 博士(心理学)
		知覚・認知心理学 I (知覚心理学) 心理学実験 I 心理学実験 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	李 大年 (平山 彩音) (46) <令和5年4月> 博士(日本社会文化)
		韓国語 I 韓国語 II
兼任	講師	中村 友一 (55) <令和5年4月> 情報工学修士
		情報処理演習 I 情報処理演習 II 情報処理演習 III
兼任	講師	黒坂 知絵 (44) <令和5年4月> 博士(工学)
		情報処理演習 I 情報処理演習 II 情報処理演習 IV
兼任	講師	堀尾 依莉 (43) <令和5年9月> 修士(工学)
		情報処理演習 II
兼任	講師	西 邦彰 (68) <令和5年4月> 教育学修士
		スポーツ
兼任	講師	高井 明彦 (53) <令和5年4月> 高等学校卒
		スポーツ
兼任	講師	徳永 政夫 (66) <令和5年4月> 体育学士
		スポーツ
兼任	講師	尾上 百合加 (48) <令和7年4月> 修士(経営学)
		キャリアデザイン II キャリアデザイン III
兼任	講師	大島 まな (64) <令和5年4月> 修士(教育学)
		人間科学概論※ 文化文芸概論 生涯学習概論
兼任	講師	願 佩霊 (44) <令和6年4月> 心理学修士
		社会調査法 心理学統計法 II
兼任	講師	植村 善太郎 (51) <令和5年9月> 博士(教育心理学)
		社会・集団・家族心理学 I (社会・集団心理学)
兼任	講師	銭 琨 (39) <令和5年4月> 博士(心理学)
		知覚・認知心理学 I (知覚心理学) 心理学実験 I 心理学実験 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	廣永 成人 (57) ＜令和7年4月＞ 工学博士
		神経・生理心理学
兼任	講師	副田 秀二 (54) ＜令和6年4月＞ 学士(医学)
		精神疾患とその治療 人体の構造と機能及び疾病
兼任	講師	井料 洋美 (54) ＜令和5年4月＞ 修士(文学)
		日本古典文学史
兼任	講師	吉村 春香 (37) ＜令和5年4月＞ 修士(教育学)
		楷書法 I
兼任	講師	大森 アユミ (57) ＜令和5年9月＞ 教育学修士
		書写書道 I 鑑賞 生活の中の書
兼任	講師	二宮 愛理 (34) ＜令和6年4月＞ 博士(文学)
		日本古典文学 日本語の古典
兼任	講師	黄 冬柏 (61) ＜令和7年4月＞ 文学博士
		漢文学 I 漢文学 II
兼任	講師	野田 正行 (69) ＜令和8年9月＞ 教育学士
		仮名書法 II
兼任	講師	吉田 成美 (66) ＜令和7年4月＞ 専門学校卒
		漢字仮名交じり書法 I 漢字仮名交じり書法 II
兼任	講師	小原 俊樹 (68) ＜令和7年4月＞ 教育学士
		書文化研究
兼任	講師	姚 明 (55) ＜令和7年4月＞ 教育学修士
		水墨画演習
兼任	講師	遠藤 哲広 (63) ＜令和7年4月＞ 経済学修士
		商品プランナー実務論
兼任	講師	柴田 里彩 (28) ＜令和7年4月＞ 修士(教育学)
		教育行政学
兼任	講師	曾我 悦子 (63) ＜令和6年4月＞ 修士(教育学)
		教育課程論(中等)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	廣永 成人 (58) ＜令和7年4月＞ 工学博士
		神経・生理心理学
兼任	講師	副田 秀二 (55) ＜令和6年4月＞ 学士(医学)
		精神疾患とその治療 人体の構造と機能及び疾病
兼任	講師	井料 洋美 (55) ＜令和5年4月＞ 修士(文学)
		日本古典文学史
兼任	講師	吉村 春香 (38) ＜令和5年4月＞ 修士(教育学)
		楷書法 I
兼任	講師	大森 アユミ (58) ＜令和5年9月＞ 教育学修士
		書写書道 I 鑑賞 生活の中の書
兼任	講師	二宮 愛理 (35) ＜令和6年4月＞ 博士(文学)
		日本古典文学 日本語の古典
兼任	講師	黄 冬柏 (62) ＜令和7年4月＞ 文学博士
		漢文学 I 漢文学 II
兼任	講師	野田 正行 (70) ＜令和8年9月＞ 教育学士
		仮名書法 II
兼任	講師	吉田 成美 (67) ＜令和7年4月＞ 専門学校卒
		漢字仮名交じり書法 I 漢字仮名交じり書法 II
兼任	講師	小原 俊樹 (69) ＜令和7年4月＞ 教育学士
		書文化研究
兼任	講師	姚 明 (56) ＜令和7年4月＞ 教育学修士
		水墨画演習
兼任	講師	遠藤 哲広 (64) ＜令和7年4月＞ 経済学修士
		商品プランナー実務論
兼任	講師	柴田 里彩 (29) ＜令和7年4月＞ 修士(教育学)
		教育行政学
兼任	講師	曾我 悦子 (64) ＜令和6年4月＞ 修士(教育学)
		教育課程論(中等)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	茂見 剛 (29) <令和7年9月> 修士(教育学)
		教育方法学(情報通信技術の活用を含む。)
兼任	講師	永渕 美法 (54) <令和5年9月> 修士(自然科学)
		生涯学習概論
兼任	講師	轟 良子 (68) <令和7年4月> 短期大学卒
		児童サービス論 図書及び図書館史・図書館基礎特論
兼任	講師	藏内 保明 (64) <令和7年4月> 教育学士
		学校経営と学校図書館 学習指導と学校図書館 読書と豊かな人間性
兼任	講師	林山 誠晴 (49) <令和5年4月> 修士(教育学)
		公務員試験概論 数的処理Ⅰ 数的処理Ⅱ 数的処理Ⅲ 自然科学 公務員試験直前対策Ⅰ(教養) 公務員試験直前対策Ⅱ(教養) 自然科学演習 公務員試験直前対策Ⅰ(SPI) 公務員試験直前対策Ⅱ(SPI) 公務員試験直前対策Ⅲ(教養) 公務員試験直前対策Ⅲ(SPI) 公務員人物試験対策
兼任	講師	西嶋 久視 (46) <令和5年9月> 学士(法学)
		社会科学Ⅰ 社会科学Ⅱ 人文科学 憲法演習 行政法演習 法律科目演習Ⅰ 法律科目演習Ⅱ 専門科目記述式演習 人文科学演習 社会科学演習
兼任	講師	森江 由美子 (54) <令和6年4月> 博士(法学)
		民法(総則、物権)演習 民法(債権、親族・相続)演習
兼任	講師	入江 雅仁 (45) <令和6年4月> 修士(経済学)
		ミクロ経済学演習 マクロ経済学演習 経済科目演習Ⅰ 経済科目演習Ⅱ 専門科目記述式演習
兼任	講師	黒田 伸太郎 (47) <令和7年4月> 修士(7ドミニーション)
		行政科目演習Ⅰ 行政科目演習Ⅱ
兼任	講師	正田 淳一 (38) <令和7年4月> 学士(経済学)
		会計学演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	茂見 剛 (30) <令和6年9月> 修士(教育学)
		教育方法学(情報通信技術の活用を含む。)
兼任	講師	轟 良子 (69) <令和7年4月> 短期大学卒
		児童サービス論 図書及び図書館史・図書館基礎特論
兼任	講師	藏内 保明 (65) <令和7年4月> 教育学士
		学校経営と学校図書館 学習指導と学校図書館 読書と豊かな人間性
兼任	講師	林山 誠晴 (50) <令和6年4月> 修士(教育学)
		数的処理Ⅱ 数的処理Ⅲ 自然科学 公務員試験直前対策Ⅰ(教養) 公務員試験直前対策Ⅱ(教養) 自然科学演習 公務員試験直前対策Ⅰ(SPI) 公務員試験直前対策Ⅱ(SPI) 公務員試験直前対策Ⅲ(教養) 公務員試験直前対策Ⅲ(SPI) 公務員人物試験対策
兼任	講師	伊藤 直範 (45) <令和5年4月> 学士(教育学)
		公務員試験概論 数的処理Ⅰ
兼任	講師	西嶋 久視 (47) <令和5年9月> 学士(法学)
		社会科学Ⅰ 社会科学Ⅱ 人文科学 憲法演習 行政法演習 法律科目演習Ⅰ 法律科目演習Ⅱ 専門科目記述式演習 人文科学演習 社会科学演習
兼任	講師	森江 由美子 (55) <令和6年4月> 博士(法学)
		民法(総則、物権)演習 民法(債権、親族・相続)演習
兼任	講師	入江 雅仁 (46) <令和6年4月> 修士(経済学)
		ミクロ経済学演習 マクロ経済学演習 経済科目演習Ⅰ 経済科目演習Ⅱ 専門科目記述式演習
兼任	講師	黒田 伸太郎 (48) <令和7年4月> 修士(7ドミニーション)
		行政科目演習Ⅰ 行政科目演習Ⅱ
兼任	講師	正田 淳一 (39) <令和7年4月> 学士(経済学)
		会計学演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	沙 秀程 (68) <令和5年4月> 教育学修士	兼任	講師	沙 秀程 (69) <令和5年4月> 教育学修士
		初級日本語 I A 初級日本語 I B 初級日本語 II B 日本語講座 I 日本語講座 II			初級日本語 I A 初級日本語 I B 日本語講座 I 日本語講座 II
			兼任	講師	包賀喜格園 (50) <令和5年4月> 博士(歴史学)(中華人民共和国)
					初級日本語 II B
兼任	講師	占部 匡美 (52) <令和5年4月> 文学修士			
		初級日本語 I A 初級日本語 I E			
			兼任	講師	加納 亜里紗 (48) <令和5年4月> 学士(教養)
					初級日本語 II C
			兼任	講師	沈 若冰 (49) <令和5年4月> 修士(商学)
					初級日本語 I E
兼任	講師	立花 奈央 (42) <令和5年4月> 学士(法学)	兼任	講師	立花 奈央 (43) <令和5年4月> 学士(法学)
		初級日本語 I D			初級日本語 I D
兼任	講師	毛 瑩 (38) <令和5年4月> 博士(比較社会文化)	兼任	講師	毛 瑩 (39) <令和5年4月> 博士(比較社会文化)
		初級日本語 II A 初級日本語 II D			初級日本語 II A 初級日本語 II D
兼任	講師	平田 直子 (52) <令和5年4月> 専門学校卒	兼任	講師	平田 直子 (53) <令和5年4月> 専門学校卒
		初級日本語 II E			初級日本語 II E
兼任	講師	河原木 有二 (58) <令和5年4月> 文学修士	兼任	講師	河原木 有二 (59) <令和5年4月> 文学修士
		日本事情 I 日本事情 II			ことばと日本文化※ 日本事情 I 日本事情 II

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業の授業科目名を記入するとともに、下段に

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和5年度】

- ・内村尚俊専任教授、押岡大寛専任教授、関洋輔専任准教授、柏原康人専任准教授、安井絢子専任講師、園田文香専任講師が就任。
- ・教育効果を向上させることを目的として、「人間科学概論」をオムニバス方式へ変更するとともに、担当教員に古木誠彦専任准教授、大島まな兼任講師を追加。
- ・教育課程編成上の都合により、「情報処理演習Ⅰ」「情報科学概論」の担当教員を鄭俊如専任教授から関洋輔専任准教授へ変更。
- ・教育課程編成上の都合により、「情報処理演習Ⅱ」の担当教員を鄭俊如専任教授から黒坂知絵兼任講師へ変更。
- ・教育課程編成上の都合により、「日本語表現Ⅰ」の担当教員を櫻澤葉子兼任講師から江口恵子専任教授へ変更し、安井絢子専任講師を追加。
- ・教育課程編成上の都合により、「国語科教育法Ⅰ」の担当教員を江口恵子専任教授から内村尚俊専任教授へ変更。
- ・教職課程認定申請における指摘対応のため、古浦修子専任教授の担当科目「日本近現代文学演習」を「日本近現代文学演習Ⅰ」へ科目名称を変更して「日本近現代文学演習Ⅱ」を追加、吉岡（平沢）真由美専任准教授の担当科目「日本古典文学演習」を「日本古典文学演習Ⅰ」へ科目名称を変更して「日本古典文学演習Ⅱ」を追加、茂見剛兼任講師の担当科目「教育方法学（情報通信技術の活用を含む。）」の配当年次を3年後期から2年後期へ変更。
- ・教育課程編成上の都合により、「キャリア基礎演習Ⅰ」の担当教員を吉岡（平沢）真由美専任准教授から安井絢子専任講師へ変更し、園田文香専任講師を追加。
- ・教育課程編成上の都合により、「文化芸概論」の担当教員に柏原康人専任准教授、安井絢子専任講師、大島まな兼任講師を追加。
- ・教育課程編成上の都合により、「発達心理学」の担当教員を山口勇弥専任講師から園田文香専任講師へ変更。
- ・教育課程編成上の都合により、「健康・医療心理学」の担当教員を山口勇弥専任講師から押岡大寛専任教授へ変更。
- ・教育効果を向上させることを目的として、「ことばと異文化」をオムニバス方式へ変更。
- ・吉村圭兼准教授の就任辞退に伴い、「TOEIC入門」「イングリッシュワークショップ」「スキルアップ講座R」「スキルアップ講座S」を松原留美兼准教授へ変更。
- ・教育効果を向上させることを目的として、「ことばと日本文化」をオムニバス方式へ変更するとともに、担当教員に河原木有二兼任講師を追加。
- ・就任辞退に伴い、「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」の担当教員を山口晋平兼任講師から松原留美兼准教授へ変更。
- ・教育課程編成上の都合により、「中国語Ⅰ」「中国語Ⅱ」の担当教員に陳振華兼任講師、鳥丸知子兼任講師を追加。
- ・就任辞退および教育課程編成上の都合により、「スポーツ」の担当教員を高西敏正兼任講師から西邦彰兼任講師、高井明彦兼任講師へ変更。
- ・就任辞退に伴い、「生涯学習概論」の担当教員を永淵美法兼任講師から大島まな兼任講師へ変更。
- ・教育課程編成上の都合により、「公務員試験概論」「教的处理Ⅰ」の担当教員を林山誠晴兼任講師から伊藤宜範兼任講師へ変更。
- ・教育課程編成上の都合により、「初級日本語ⅡB」の担当教員を沙秀程兼任講師から包賀喜格図兼任講師へ変更。
- ・就任辞退に伴い、「初級日本語ⅠA」を沙秀程兼任講師1名での担当へ変更、「初級日本語ⅠE」を占部匡美兼任講師から沈若冰兼任講師へ変更。
- ・教育課程編成上の都合により、「初級日本語ⅡC」の担当教員を井料佐紀子兼任講師から加納亜里砂兼任講師へ変更。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
	5
10	
名	名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。
 ・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高专】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
6	3	2	0	11	0	7	4	3	0	14	0
(6)	(3)	(1)	(0)	(10)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
8	4	4	0	16	0	8	4	4	0	16	0
[2]	[1]	[2]	[0]	[5]	[0]	[2]	[1]	[2]	[0]	[5]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
教授 65 その他 60 歳	1 名	2 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{16}{11} = \boxed{145.45} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{14} = \boxed{7.14} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計 (D)						後任補充状況の集計 (E)				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	0	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	0	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した**全ての専任教員**の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、**赤字**にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計 (F)						後任補充状況の集計 (G)				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	0	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	0	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について、記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{11} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で**赤字**で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
 ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F)と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
		該当なし						
合計					後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	0	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	0	科目	自由	科目	自由	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計

(注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について、記入してください。

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
届 出 時 (令和4年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - 【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「(4) (5)」と記載してください。
 - 【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(5)」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<人間科学部 心理・文化学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学では、「九州女子大学ファカルティ・ディベロップメント（以下、「FD」という。）推進委員会規程」を制定し、組織的なFD活動を展開している。このFD推進委員会は、全学的組織として、教育の質的向上・授業改善等に向けた諸施策の企画・立案、FDに係る研究会および講習会の企画・運営、学生による授業評価等の企画・実施・改善を担っている。

九州女子大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規程（平成20年3月19日施行）

（設置）

第1条 本学に、九州女子大学評議会規則（平成6年学園規則第3号）第10条の規定により九州女子大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（以下「FD推進委員会」という。）を置く。

（目的）

第2条 FD推進委員会は、建学の精神及び教育理念・目的に立脚し、教育内容等の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施することを目的とする。

（任務）

第3条 FD推進委員会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項の推進を図ることを任務とする。

- (1) 教育の質的向上に向けた諸施策の企画、立案、実施に関する事項
- (2) 研修会及び講習会の企画、運営に関する事項
- (3) 学生による授業評価等の企画、実施、改善に関する事項
- (4) その他必要と認める事項

（組織）

第4条 FD推進委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 副学長
 - (2) 学部長
 - (3) 教務部長
 - (4) 教務副部長
 - (5) 学長が推薦する教育職員 若干名
 - (6) 教務課の事務職員 1名
- 2 前項に定める者のほか、学長が必要と認めた職員を委員に加えることができる。

（任命及び任期）

第5条 前条第1項第5号及び第6号に掲げる委員は、学長が任命する。

- 2 前項の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 3 委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長及び議長）

第6条 FD推進委員会に委員長を置き、委員のうちから学長が指名する者をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集する。
- 3 FD推進委員会に議長を置き、委員のうちから学長が指名する者をもって充てる。
- 4 委員長及び議長に事故あるときは、学長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

（定数及び議決）

第7条 FD推進委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

- 2 FD推進委員会の議事は、出席委員の3分の2以上の賛成をもって決する。
- 3 委員長は、必要に応じて、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(九州女子短期大学との合同委員会の開催)

第8条 委員長は、九州女子短期大学とのファカルティ・ディベロップメントに関する共通事項を推進するため、九州女子短期大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員長との協議により合同の委員会（以下「合同委員会」という。）を開催することができる。

(1) 合同委員会の委員長 合同委員会の長（以下「合同委員長」という。）は、九州女子大学FD推進委員会委員長とする。

(2) 合同委員会の議長 合同委員会の議長は、九州女子大学FD推進委員会議長とする。

(3) 合同委員会の開催 合同委員会の開催は、合同委員長が必要と認めたととき及び九州女子大学FD推進委員会又は九州女子短期大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会が開催を要求したとき、委員長が会議を招集する。

(4) 合同委員会の定数及び議決

合同委員会の定数及び議決等は、前条の規定を準用する。

(事務)

第9条 委員会の事務は、教務課において処理する。

附則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成20年11月15日から施行する。

附則

この規程は、平成22年6月11日から施行し、同年4月1日から適用する。

附則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附則

この規程は、令和2年4月17日から施行し、同年4月1日から適用する。

附則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

規程に従い、九州女子大学FD推進委員会を開催する予定である。

令和5年度第1回FD推進委員会開催予定：令和5年5月末（委員11名）

c 委員会の審議事項等

- ・教育の質的向上に向けた諸施策の企画、立案、実施に関する事項
- ・研修会及び講習会の企画、運営に関する事項
- ・学生による授業評価等の企画、実施、改善に関する事項
- ・その他必要と認める事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・FD研修会（年2回）
- ・授業相互参観（年1回）
- ・授業フィードバック・アンケート（年2回）

b 実施方法

- ・FD研修会
教育活動と研究活動に関する事項をテーマにFD研修会を年2回、講演会形式で実施
- ・授業相互参観
前期または後期のいずれかの学期で、年1回、教員相互による授業参観を実施
- ・授業フィードバック・アンケート
前期は7月、後期は12月～1月に全専任教員・非常勤講師の授業科目にて実施

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・令和4年度FD研修会
第1回 令和4年7月21日（木）13:05～14:35 全専任教員参加
第2回 令和4年11月24日（木）13:05～14:35 全専任教員参加

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

授業フィードバック・アンケート結果は、各教員に集計結果を配付し、教員ごとの授業の内容・方法等及び学生自身の授業への取り組み等に関する問題点を明らかにし、各教員が次年度に向けて授業改善に繋げている。また、授業フィードバック・アンケート結果を踏まえた分析および改善点を記載した個人点検・評価報告書（ティーチング・ポートフォリオ）を学内にて情報共有を図り、全学的な教育研究活動の質の向上を図る。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

授業フィードバック・アンケートを実施
実施時期：前期7月、後期12月～1月（年2回）

b 教員や学生への公開状況、方法等

各教員に授業フィードバック・アンケート集計結果を配付している。授業フィードバック・アンケート結果を踏まえた分析および改善点を記載した個人点検・評価報告書（ティーチング・ポートフォリオ）について学生に図書館にて公開するとともに、大学ホームページに授業フィードバックアンケートの大学全体の集計結果を掲載している。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

学是「自律処行」の精神に基づき、心理・文化学科は、人間の心理と文化に関する専門性と広い視野を有し、社会に貢献できる、豊かな人間性と高い倫理性を備えた人材を育成することを目的としている。令和5年度入学生が定員90名に対して82名と定員に満たない結果となったことが課題である。今後は高校生向けの広報活動の強化を継続するとともに、心理・文化学科における開設予定の大学院につながる学びや教員採用試験対策、文化文芸など教育コースの学びについて理解と周知を強化していくことで、志願者の増加と定員の確保に努める。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

令和4（2022）年度自己点検・評価報告書 令和5年3月

b 公表方法

大学ホームページ上に公表

③ 認証評価を受ける計画

令和4年度に公益財団法人 日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受け、令和5年3月14日付で同機構から「日本高等教育評価機構が定める評価基準に適合していると認定する」との通知を受けた。認定の期間は、令和4年4月～令和11年3月までの7年間である。したがって、次の認証評価の受審は令和10年度を予定している。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で「有」の場合 》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 a で公表「無」の場合 》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。